

がん検診におけるメリット・デメリット

国が推奨するがん検診

	対象年齢	受診間隔	検診項目
胃がん検診	50歳以上 ※当分の間、胃X線検査については、40歳以上に対し実施可	2年に1回 ※当分の間、胃X線検査については、年1回実施可	問診、胃X線検査又は胃内視鏡検査
肺がん検診	40歳以上	年1回	問診、胸部X線検査、喀痰細胞診
大腸がん検診	40歳以上	年1回	問診、便潜血検査（2日法）
子宮頸がん検診	20歳以上 30歳以上	2年に1回 5年に1回	問診、視診、子宮頸部の細胞診、HPV検査単独法
乳がん検診	40歳以上	2年に1回	問診、乳房X線検査 ※視診、触診は推奨しない

これらはがん死亡を減らす効果が確実で、メリットがデメリットを上回る検診です。

がん検診のメリット、デメリットは、推奨するがん検診もそれ以外の検診も同じです。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">・標的とするがんによる死亡を防ぐ・早期発見により治療が軽度で済む・本当にがんがない人が検診で「異常なし」と診断されることで安心して生活できる	<ul style="list-style-type: none">・偽陰性（見逃し）・偽陽性（不必要な精密検査を受ける）・過剰診断・偶発症

それ以外の検診（任意型検診：前立腺がん検診、胸部CT検診、乳腺超音波検査など）はがんで亡くなることを防ぐ科学的根拠が不明、または現在検討中で結論が出ていないため国は推奨していません。今のご自身の年齢や健康状態を踏まえ、受診した場合のメリット、デメリットを十分考慮して決めてください。ご自身が納得した上で受けることが大切です。